

チリ経済情勢報告(2017年9月)

<概要> 景気は投資が減少しているものの、改善が見られる。

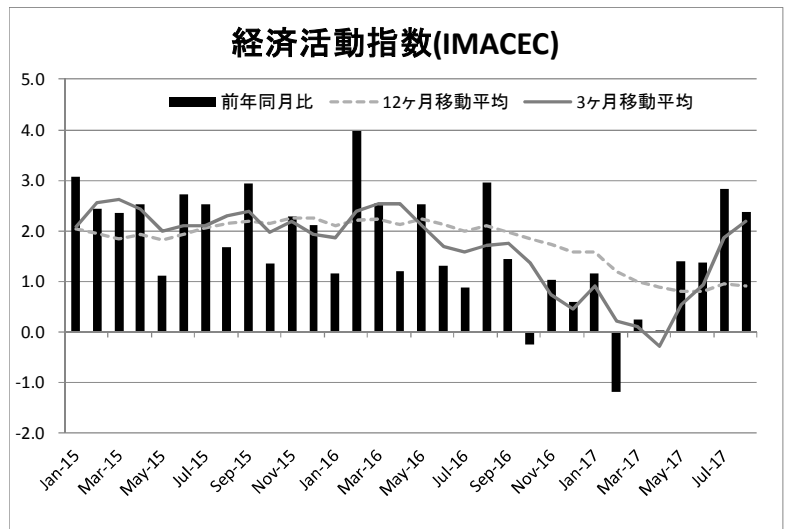
- 消費は改善している。
- 企業マインドと生産は回復しつつある。
- 失業率は低下傾向にある。
- 消費者物価は低下している。
- 貿易は輸出が上昇している。
- 銅価格が高まっており、為替もペソが強くなっている。株価も上昇を続けている。

先行きについては、国際経済の不透明感による為替及び銅価格に引き続き留意する必要がある。

1. 経済指標

(1) 経済活動指数(IMACEC) –
前年同月比 2.4%増 –

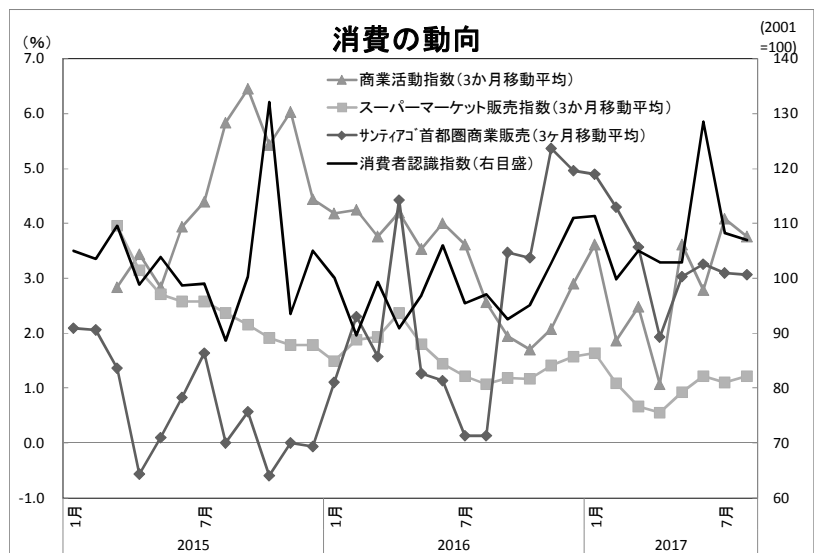
8月のIMACECは前年同月比2.4%、季節調整済前月比は0.3%と引き続き高い傾向を示している。中銀によると、営業日数は昨年と同じであった。鉱業は前年同月比9.2%と好調で、鉱業以外の業種も同1.8%と先月からは鈍化している。商業、サービス業が上昇する中、建設業が低下している。なお、季節調整済前月比では鉱業は1.5%、非鉱業部門は0.2%となった。



中銀アンケートによる10月のIMACECの予想は前年同月比2.0%(中央値)となっている。

(2) 消費 – 改善している –

- ① 8月の商業活動指数(実質, INE公表)は、前年同月比4.9%となった。同指数の小売業(除く車)は同3.6%となった。
- ② 8月のスーパーマーケット販売額(実質, INE公表)は、前年同月比2.4%となった。
- ③ 8月の商業販売額(チリ商工会議所公表, サンティアゴ首都圏, 暫定値)



は、3.2%となった。

④ 8月の消費者認識指数（CEEN公表）は106.9と前月（108.3）から減少している。現状指数は118.8（128.2），将来指数は102.8（101.3）となった。

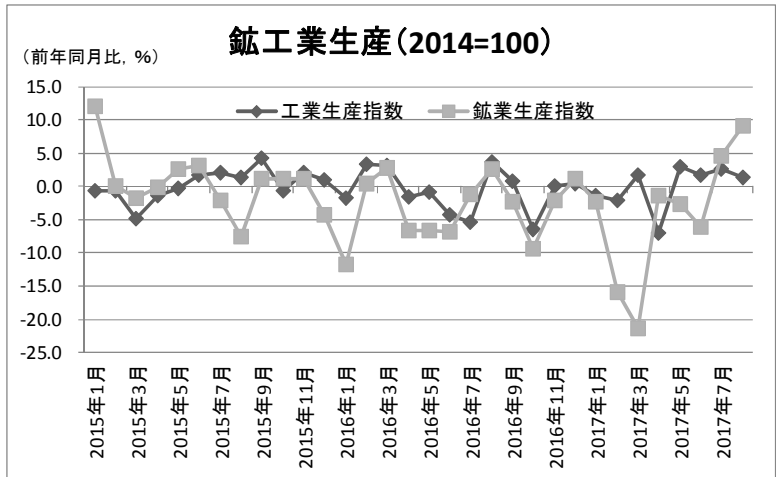
⑤ 8月の新車販売台数は35,354台（前年同月比44.0%）となった。

（3） 鉱工業生産，電力一回復しているー

8月の工業生産指数は、前年同月比1.4%となった。セクター別では、印刷が30.3%，その他の運搬製品が同25.4%，製薬が同21.7%と増加した。一方、衣料が同▲19.8%，たばこが同▲19.0%のマイナスとなった。

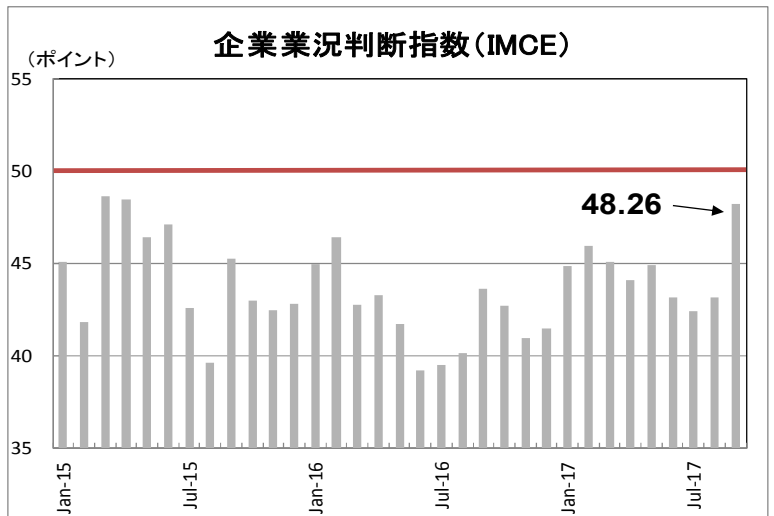
8月の鉱業生産指数は前年同月比9.2%，銅生産量は同10.2%となった。

8月の電力指数は前年同月比4.2%となった。



（4） 企業の業況判断一回復しつつあるー

8月のIMCE（企業業況判断指数）は48.26ポイントと、回復しつつある。前月差は5.09ポイントとなった。内訳を見ると、鉱業が66.23（前月差13.41ポイント）と商業が51.63（同1.63ポイント）と50ポイントを超えて改善しており、製造業が44.29（同1.4ポイント）と回復基調にある。一方で、建設業が33.33（同8.33ポイント）と低迷が続いている。



（5） 不動産ー好調な住宅部門が回復を下支えしているー

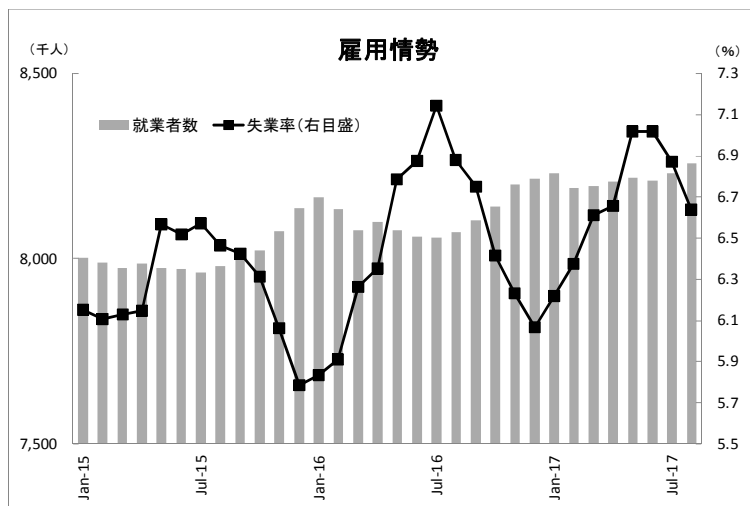
7月の建築許可面積（INE公表）は前年同月比3.2%（3か月移動平均）と回復している。内訳を見ると、住居が同31.7%と堅調な伸びを続ける一方、非住居は同▲28.5%と悪化している。



(6) 雇用－失業率は低下傾向にある－

6～8月期の失業率は6.6%と先月に引き続き低下傾向にある。前年同期比で見ると、労働力人口は177,734人増加（前年同期比2.1%）、就業者数は186,739人増加（同2.3%）し、失業者数は▲12,463人減少（同▲1.5%）している。就業者数を職業別にみると、社会保険サービスが前年同期比14.7%、その他のサービスが同8.9%、不動産が8.6%と増加する一方、建設が▲5.9%、製造業が▲2.7%と減少している。

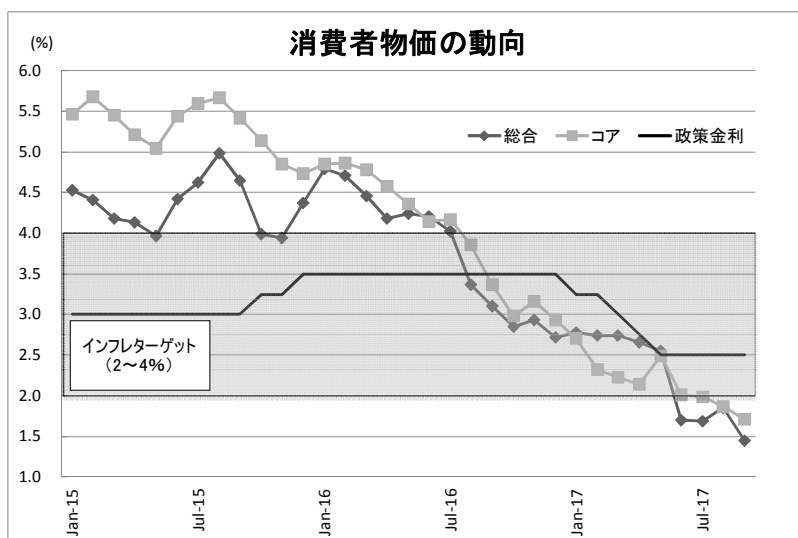
7月の賃金は、名目は前年同月比6.0%、実質は同4.1%となった。



(7) 物価－低下している－

9月の消費者物価指数（総合）は、前月比は▲0.2%、前年同月比は1.5%となった。品目別に前年同月比の動きをみると燃料（7.2%）、アルコール・タバコ（6.4%）が上昇している一方、生鮮野菜果物（▲11.5%）、衣料品・靴（▲5.9%）と下落している。

中銀アンケートによる10月の消費者物価指数（総合）の予想は前月比0.2%となっている。インフレ期待は1年後：2.7%（前月2.7%）、2年後：3.0%（前月3.0%）であり、物価の回復には時間がかかると見ている。

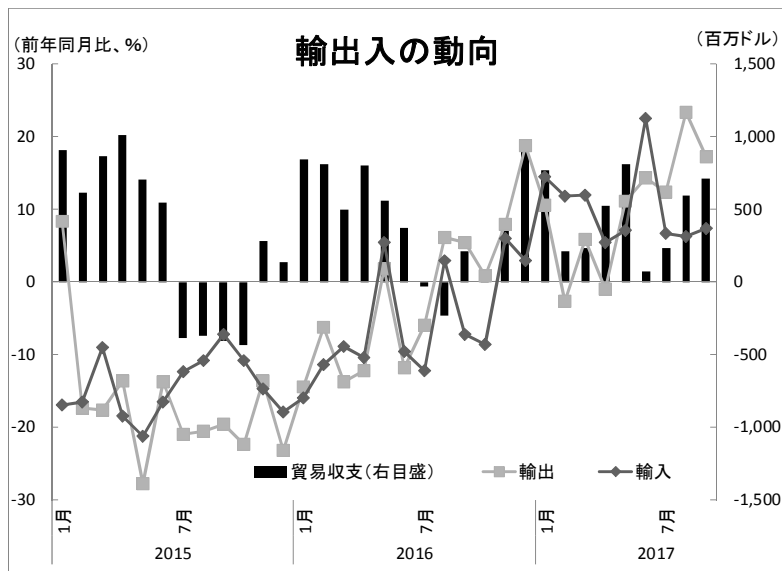


8月の生産者物価（全産業）は、前月比は2.2%、前年同月比は12.6%となった。鉱業が上昇（前年同月比27.6%）し続ける一方、銅以外の産業では低下（同0.6%）しており、特に農耕牧畜（同▲1.5%）、建設（同▲1.2%）で低下している。

(8) 貿易－輸出が上昇している－

① 9月の輸出額（FOB）は57.4億ドル（前年同月比17.2%）となった。内訳を見ると、鉱業品33.3億ドル（同22.8%）、農林水産品2.8億ドル（同13.6%）、製造業品21.3億ドル（同9.8%）となった。鉱業品のうち銅は31.8億ドル（同29.5%）となった。

② 9月の輸入額（FOB）は51.3億ドル（前



年同月比7.3%)となった。内訳(CIF)は、消費財18.6億ドル(同15.4%)、中間財24.5億ドル(同▲0.8%)、資本財10.3億ドル(同14.9%)となった。

③9月の貿易収支(FOB)は7.1億ドルの黒字となった。

(9) 対日・中・韓貿易

①対日貿易(FOB):8月の貿易額は、輸出額5.6億ドル(前年同月比31.1%)、輸入額1.5億ドル(同▲11.2%)、貿易総額では7.1億ドル(同19.1%)となった。

②対中貿易(FOB):8月の貿易額は、輸出額16.2億ドル(前年同月比31.0%)、輸入額13.9億ドル(同9.0%)、貿易総額では30.0億ドル(同19.8%)となった。

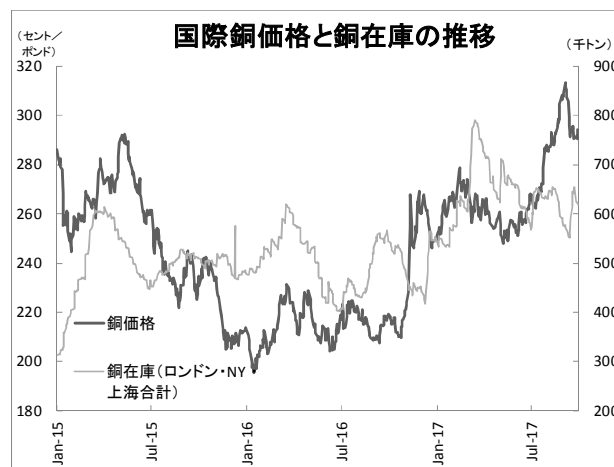
③対韓貿易(FOB):8月の貿易額は、輸出額4.4億ドル(前年同月比20.1%)、輸入額1.4億ドル(同▲15.4%)、貿易総額では5.8億ドル(同9.2%)となった。

2. 市場の動き

(1) 国際銅価格－高まっている－

9月の国際銅価格は、1ポンド3.0735ドル(1日)で始まり、5日には2015年以来の最高値となる3.1316ドルを付けた後、徐々に低下し、月末には2.9415ドル(29日)と前月末比▲4.5%で終了した。

9月の銅在庫は、573,029トン(1日)から価格高騰に併せて552,29トン(11日)に減らした後、徐々に元の水準へと戻り577,749(29日)と前月末とほぼ横ばいの結果となった。



(2) 為替－ペソが強くなっている－

9月の為替は、1ドル628.89ペソ(1日)で始まり、2015年以来の最安値となる615.58(8日)を付けた後、月末には636.85ペソ(29日)と前月末比8.49ペソとなった。



(3) 株価－上昇している－

9月のIPSA値(サンティアゴ主要株式指数)は5173.91ポイント(1日)で始まり、月末には5341,93ポイント(29日)となり、前月末比3.7%で終了した。先月から引き続き最高値を更新している。



3. 経済トピックス

(1) 二国間戦略対話メカニズム:外務省国際経済関係総局プレスリリース

1日、北京に於いて、経済協力・調整に係る戦略的対話メカニズム(DECCE)の第2回会合を開催した。チリ側は、ナサルDIRECON総局長及びアルバレス投資促進庁(InvestChile)長官、中国側は、Xiaotao国家発展改革委員会(CNDR)副委員長が代表として出席した。

同メカニズムは、2013年のAPECバリ(インドネシア)首脳会合の際に、二国間の貿易、投資及び経済協力推進のために設置された。

会合では、鉱業、インフラ、エネルギー、イノベーション及び技術分野における協力の進捗、更に、新たに戦略総括作業グループを設けることを確認した。グループ毎の進捗及び課題については、タピア運輸通信大臣、ガリレア公共事業次官、ニュニェス・エネルギー省計画管理局長らが説明を行った。

「ナ」総局長は、同メカニズムが短期間にもかかわらず進捗していることを評価した。「ア」長官は、中国はチリにとって戦略的にカギとなる国であり、様々な分野で可能性を追求していきたいと述べた。

「X」副委員長は、同メカニズムは、オープンかつ透明性を有したものであり、更に、新たな作業グループによって、シナジー効果が高まり、新たな分野の開拓が期待される。両国は、同作業グループを短期間のうちに開始することとしている。

(2) 中国企業が電気自動車のチリ生産を提案:報道

8月31日、中国の企業ミッションは、チリ開発公社(CORFO)のビトラン副総裁を訪問した。訪問目的は、電気自動車の生産まで視野に入れたりチウム関連サプライチェーンへの投資を提案するものであった。

CORFOによれば、同ミッション訪問は、チリに於けるリチウムの採掘から電池製造、蓄電システム、電気自動車の製造までのリチウム資源の垂直サプライチェーンづくりを意図したものである。

同ミッションには、ダイムラーやヒュンダイと提携するBAIC Group(北京汽車集団)、China Commodities and Technology Co.及びWorld Capita Corporationが含まれる。BAIC Groupの提案は、これまでのリチウム分野の投資と異なり、チリが有する教育競争力、キャパシティ、R&Dを支えに、チリにおける垂直構造のサプライチェーンを構築し得る。

CORFOは、現在、リチウム開発の公開入札手続きを進めており、本年7月に12の事業者が関心を示し、8月にはこれが7つの事業者に選定され、当該7つの事業者は12月1日までにF/S結果をもって提案を行うこととなっている。

(3) 中国交通銀行のチリ進出検討:報道

中国国営5大銀行の一つである中国交通銀行は、チリ金融界への参入に関心を示している。8月7日、同行幹部は、チリ進出及び同行の頭取・役員のチリ訪問について話し合いを持った。

同行の国際展開は、1934年の香港進出に始まり、同行がチリに進出すれば、中国建設銀行及び中国銀行に次いで3番目になるだろう。

(4) 2017年1-8月期の新車販売台数増加:報道

2017年1-8月期の新車販売台数は、過去4年の同期比では最多である。チリ自動車商工会議所(Cavem)によれば、1-8月の販売台数は、225,004台(直近で最多であった2013年同期では242,257台。)で対前年同期比21.8%増である。

ドウマイCavem会頭は、地方における交通の不便さ、対ペソ・ドル安、8月の新モデル販売、経済見通しに対する消費者マインドの変化、更には、新しいモデル車への関心が増

加に寄与しているだろうと述べた。

総販売台数の内訳は、乗用車(セダン, シティーカー)93,043台(対前年同期比15.2%増), SUV71,503台(対前年同期比32.2%増), 軽トラック40,913台(対前年同期比21.2%), バン12,780台(7.2%増), トラック6,765台(58.2%)であった。

本年の新車販売台数について, Cavemは34.5万台, チリ自動車協会(ANAC)は33万台との見通しを立てている。

(5) 太平洋同盟「準加盟国」との交渉:外務省国際経済関係総局プレスリリース

5日, リマ(ペルー)に於いて, 太平洋同盟と豪州, カナダ, NZ及びシンガポールとの第1回首席交渉官会合が開催された。会合の目的は, 太平洋同盟と準加盟候補国(CEA)が今後の貿易交渉のためのTORに合意することであった。チリからは, ウリアDIRECON二国間経済関係局長が代表として出席した。

会合は, 太平洋同盟の現議長国コロンビアの主催によるもので, 本年6月のカリ(コロンビア)に於ける回太平洋同盟首脳会合における貿易交渉開始の発表を受け行われ, TOR及び今後の交渉スケジュールについて合意した。

(6) チリ・香港 FTA 発効5周年:外務省国際経済関係総局プレスリリース

第3回「チリ・ウィーク“中国”2017」の一環で訪中しているチリ代表団は, 香港では, チリ・香港FTA発効5周年のセミナーを開催した。また, このタイミングに併せて, チリのサクランボ輸出企業が開業された。

6日, ラム香港行政長官は, フレイ(元大統領)外務省アジア太平洋特使, ウィリアムス鉱業大臣, テルニシエル農業次官及びナサルDIRECON総局長らをヘッドとする「チリ・ウィーク“中国”2017」のチリ代表団を迎え入れた。

「ラ」長官からは, 香港とチリには貿易, 文化及びアカデミックの交流があること, 「フ」特使からは, チリ企業は香港のモノ・サービス市場への参入に関心を有していることを述べた。

「ナ」総局長は, チリ・香港FTA発効5周年のセミナーに於いて, チリは中南米の, 香港はアジアの窓口である。2016年の貿易総額は180百万米ドルに達したが, これは, まだまだ拡大する可能性があり, モノ及びサービスともに輸出機会を捉えていきたいと話した。

このタイミングに併せて, チリのサクランボ輸出企業が香港で開業した。ブヴィニックProChile局長は, 香港市場で販売されているサクランボの81%はチリ産であり, これはチリ・香港FTAによる関税の削減, ProChile(チリ貿易促進局)と民間によるプロモーション等によるところが大きいと述べた。

(7) チリ靴ブランド Bamers の日本進出:報道

チリの靴ブランドBamersは, 来年, 日本市場に進出する, とIGSグループHDのデル・リオ営業部長は述べた。IGSグループは, Bamersの株を50%, 残りは同ブランドの創業者が有している。

「デ」部長は, 2018年から日本市場におけるオペレーションを開始すべく取り組む。一方で, 米国市場に於いても来年から開始する可能性があるとした。

「B」は, 日本及び米国市場に次いで, 既にフランチャイズをもっているボリビア, ウルグアイ, ペルー, エル・サルバドル, ニカラグア, メキシコ及びスペインでの展開を拡げようとしている。

(8) 米アルベマルレ社のチリ産業開発公社(CORFO)に対するリチウムの生産拡大許可申請:報道

米国企業アルベマルレ社は, チリ産業開発公社(CORFO)に対して, アタカマ塩湖に於けるリチウムの生産拡大の許可を求めている。生産規模を許可済みの年間80千トン

から年間125千トンに拡大したいというもの。

「ア」社は、塩湖から鹹水(かんすい)を汲み上げることなく、持続的に生産量を高められる技術を開発したと説明している。CORFOとの現契約では、「ア」社は年間80千トン強の生産が認められており、これには6億米ドルの投資が必要である。これを年間125千トンまで生産を高めるには、新たな設備が必要となり、投資額は10億米ドルに達する。CORFO評議会が「ア」社の当該申請を承認又は却下するにしても、ビトランCORFO副総裁は、チリ国家はこのリチウム分野で大きな収益をあげており、「ア」社の申請を認めない理由はないと述べた。

リチウムの価格は上昇しており、また、生産量が増加していることから、「ア」社とCORFOの契約が発効することで、(リチウムによる)チリ国家の収入は90億米ドルの収入増が見込まれる。

(9) 2017年のチリ銅生産:報道

チリ鉱業の財務状況は、銅価の回復により改善しているが、生産面は決してポジティブとは言えない。コンサルタントのPlusminning社の試算によれば、本年の銅生産量は510万トンで対前年比では40万トンの減少である。

チリは、昨年、他の銅生産競争国を引き離して、世界生産全体の26.9%を占めたが、本年はエスコンディエーダ鉱山のストが影響して、シェアは24%に留まる。なお、2007年は、35.7%を占めた。

専門家は、チリの銅生産は2018年からは回復するだろうが、2025年以降の生産は、現在の投資如何に係っており、新規の投資プロジェクトが不足していると指摘する。

(10) 中国製鉄鋼製品の輸入増加:報道

中国製の鉄鋼製品に対して関税引上げ措置が採られているにもかかわらず、その輸入量は減少していない。ラテンアメリカ鉄鋼協会(Alacero)のデータによれば、中国からの輸入量は、本年上半期71.2万トンで、対前年同期比36%の増加である。中国の鉄鋼製品の世界輸出は、本年上半期で29%減少しているにもかかわらず、(対チリ、中南米では)増加している。チリは、中南米諸国の中でも最大の中国鉄鋼製品の輸入国である。

チリの太平洋製鉄会社(CAP)及びブラジルのジョルダウ社は、鉄鋼製品、特に中国産の輸入に対して関税の引上げを求めていた。関税措置やAD調査調査は、不当な貿易競争に有効であるが、中国企業は、一度、関税措置が採られると輸出する製品を変えてくると、Alacero関係者は述べた。

(11) チリ・アルゼンチン貿易協定交渉:外務省国際経済関係総局プレスリリース

9月25~26日、ブエノスアイレス(アルゼンチン)に於いて、第5回チリ・アルゼンチン二国間貿易協定の交渉を行った。これは、2週間後には、協定文の法制上の精査を行った上で署名を行うことを前提としている。

当該協定では、物品貿易、投資、サービス、政府調達、通信、電子商取引分野に係る法手続きの拡大及び深化を目指しており、技術基準、動植物検疫、税関手続きについても同様に改善、完全化する。また、環境、労働、ジェンダー、中小企業、協力、競争政策も新しい分野として加わる。

当該協定によって、サービスや政府調達分野における新たなビジネスチャンス、通信におけるローミング排除、投資の保護、物品貿易における円滑化と確実性の確保、電子商取引における新たな協力、電子署名の相互承認など、二国間関係の高度化が実証されるだろう。

(12) TPP11交渉の国内向け説明会:外務省国際経済関係総局プレスリリース

9月29日、ロペアンディアドIRECON・TPP首席交渉官は、市民団体、組合、企業家か

らなる25名の代表者と会合をもち、米国離脱後のTPPの発効に向けた交渉状況について説明を行った。

上記会合に於いて、「口」交渉官は、9月20日～22日の東京に於ける首席交渉官及び作業グループによる交渉会合の主要ポイントを紹介し、また、右会合はポジティブなもので、11月のダナン(ベトナム)に於けるAPEC首脳への提言に向けて前進している。10月末には、再度、日本に於いて作業会合が開催される旨説明した。

(以上)